21J-pm15S

日本人の海外旅行先での薬局利用状況と訪日外国人の日本での薬局利用状況の比較

○吉田 舞衣[1], 村重 勇輔[1], スミス 朋子[1], 楠瀬 健昭[1]（[1]大阪薬大）

【目的】本調査では、日本人が海外に赴いた際の薬局利用状況と、訪日外国人の日本での薬局利用状況を比較することで、両者の利用状況における相違点を明らかにすることを目的とした。

【方法】2017 年 10 月に京都駅周辺にて訪日外国人を対象に英語を使用しアンケートを実施した。また、2018 年 10 月の約 1 ヶ月間、Web 上、または、紙媒体で日本人（在留外国人を含む）を対象とした日本語でのアンケート調査を実施した。

【結果および考察】訪日外国人(n=74)の 60%が日本での薬局利用経験があり、日本人・在留外国人(n=136)のうち、海外旅行経験者(n=127)の 52%が海外旅行先で薬局を利用したことがあると回答した。海外旅行先での薬局利用目的で最も多く見られた回答は日本人、外国人ともに「医薬品購入」であった。海外旅行先に医薬品を持参した日本人は 84%であるのに対し、訪日外国人は 68%であった。海外旅行先での軽症時の対処行動に関しては、日本人の場合、「持参薬で様子を見る」という回答者が 62%と最も多く、「薬局/ドラッグストアへ行く」という回答は 13%となったが、訪日外国人の日本での軽症時の対処行動では「薬局に行く」という回答が 38%と最も多く、次いで「持参薬で様子を見る」という回答が 28%となった。一方、重症時は、日本人では「病院/クリニックに行く」という回答者が最も多いものの 39%にとどまり、次いで「誰かに相談する」という回答者が 38%となったのに対し、訪日外国人では 73%が「病院/クリニックに行く」と回答した。本調査結果より、日本人と外国人とのあいだでの対処行動の違いが示唆された。